

ドイツにおける地域スポーツクラブの自立運営に関する調査

○上野裕生 岩崎徹也 (慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科)

I 背景・目的

近年日本では、ドイツの地域スポーツクラブを参考に総合型地域スポーツクラブ（以下総合型クラブ）と呼ばれるスポーツクラブが全国各地で発展してきた。しかし日本とドイツではスポーツを取り巻く状況が異なるため、主に理念を参考にしたクラブ運営の難しさが指摘されてきた。そこで本調査では、ドイツのスポーツクラブの運営について、施設と収益に焦点を絞って実情を示すことを目的に、クラブの運営に携わる人物へのインタビュー調査を行った。

II 調査対象

調査対象となるクラブについては「子どもと大人を対象とするスポーツ種目を行っている」「5種目以上のスポーツ種目を行っている」という条件に基づき、表1に示す3クラブを選定した。クラブの所在地と回答者、期日も併せて記載する。またクラブの特性に関する結果を表2に示す。SV Weiden 及び Tuspo の調査においては現地学生 (German Sport University Cologne 蜂谷氏, Georg August University Göttingen 森田氏) の協力を仰いだ。

クラブ名	Frankfurter Turn Vereine 1860	Sportvereine Weiden 1914/1975 e.V.	Turn- und Sportvereinigung von 1861 Göttingen e.V.
文中略	FTV	SV Weiden	Tuspo
地域	フランクフルトアム マイン市 東部郊外	ケルン市 西部郊外	ゲッティンゲン市 南部住宅街
回答者	Gerd Kindeliben氏	Brigitte Schwäbe氏	Gisela Bunzel-Wachenhausen 氏
役職	理事長	事務職	副理事長
期日	2013/02/26 11:00-12:00	2013/02/28 16:00-17:00	2013/03/06 17:30-18:30

表1. 調査対象クラブ

	FTV	SV Weiden	Tuspo
設立年	1860	1914	1861
会員数(人)	1,600	1,200	725
有給スタッフ数(人)	3	1	0
会員数の多い種目 (または主要な種目)	Breitensport (子どもスポーツ教室)	Football	Inline-Skating
	Judo	Koronarsport (高齢者向けスポーツ)	Kendo
	Gymwelt	Volleyball	Speed Badminton
種目数	22	16	28
会費(/年)	132€(大人) 78€(18歳まで)	会費なし	108€(大人) 72€(18歳以下、学生、失業者等)
種目参加費/月(最低~最高)	1.5€~24€	4.25€~16.5€	0€(一部の種目では参加費あり)
使用スポーツ施設	体育館	サッカーグラウンド	体育館6か所
	テニスコート	体育館	
	野球場		
その他施設	オフィス	オフィス	オフィス兼集会場
	レストラン	レストラン	

表2. 調査対象クラブの特性

III 結果

3つのクラブに対する調査結果から、クラブ毎に項を設けて収益および施設に関して記述する。また本調査においては、会費とは「クラブへの会員登録の際に支払う費用」、種目参

加費とは「クラブ内の各種目に参加するために支払う費用」とする。収益について、SV Weiden 及び Tuspo は、クラブの財務諸表を入手できたため詳細な情報が得られた。しかし FTV は理事長から口頭で伝えられた大まかな数字となっている。

3-1. FTV の状況.

収益：年間収益が全体で 400,000€程度であり、その内会員からの収入が 250,000€(62.5%)程度を占めていた。会員からの収入は会費として徴収するものが多くを占め、一部の特殊な指導を必要とする種目において参加費を多く徴収していた。市や州からの助成は「jugend（若者）スポーツに対する助成」「施設管理に対する助成」「施設投資に対する助成」とその用途が定められていた。また企業からの支援は、クラブメンバーの知り合いやクラブハウス付近にある店舗等が多くを占め、理事長曰く「スポンサーシップというよりフレンドシップ」とのことであった。

施設：クラブの創設期より施設を所有してきた。小学校や幼稚園に施設を貸し出すことで収入を得ているが、その他のスポーツクラブへの施設貸し出しは行っていなかった。

3-2. SV Weiden の状況

収益：年間の収益は 283,915€であり、その内会員からの収入が 144,024€（51%）であった。会員からの収入に関して、サッカーとその他の種目では指導者や使用施設等の内容が大きく異なるため、会費を徴収せず、種目毎に参加費を徴収していた。また、サッカーでは、Bezirksliga Mittelrhein（ミッテルライン協会リーグ、5部相当）に所属するトップチームの試合観戦者等から寄付を集めていた。クラブとしては、地元の自動車販売店や保険会社店舗等から金銭的支援を受けていた。

施設：サッカーで使用している人工芝のグラウンドは市の所有物だが、クラブが管理を引き受けることで使用料を免除されており、日本でいう指定管理者のような状況であった。グラウンドに付随するオフィス及びレストランについては、クラブメンバーが建設して市に寄贈したものであり、使用料を免除されていた。

3-3. Tuspo の状況

収益：年間の収益は 68,397€であり、その内会員からの収入が 60,401€（88%）であった。Tuspo では一部の種目を除いて種目参加費は取らず、会費を払えば好きな種目に参加できる形態を取っていた。その他の収入としては市や州からの支援がある。

施設：クラブとして6施設を用いているが、全て市の所有物であり毎年使用申請を行っている。施設使用料は、ほぼ無料である。

IV まとめ

3つのクラブでは、中心となるスポーツや用いるスポーツ施設により活動の形態やビジネスモデルが大きく異なっていた。印象的であったのは、FTV のインタビューにおいて出てきた「あなたが言うような理想のスポーツクラブはドイツでもほんの一部だ」という言葉であり、今後日本の総合型クラブがドイツのスポーツクラブを参考としていく上では、その全体像と分類が必要だと考えられる。